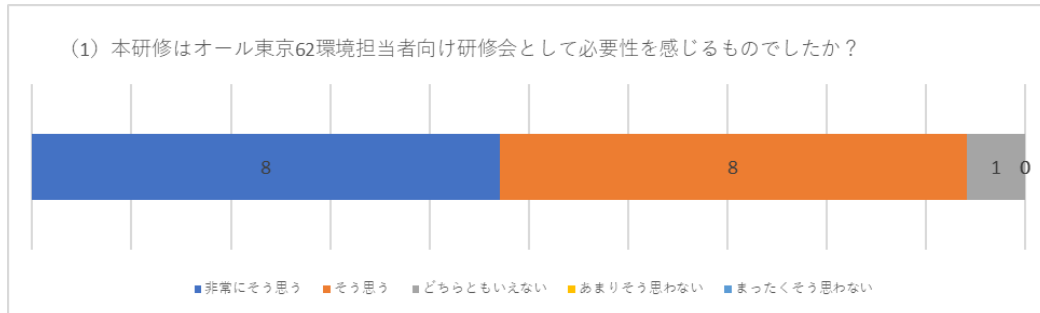


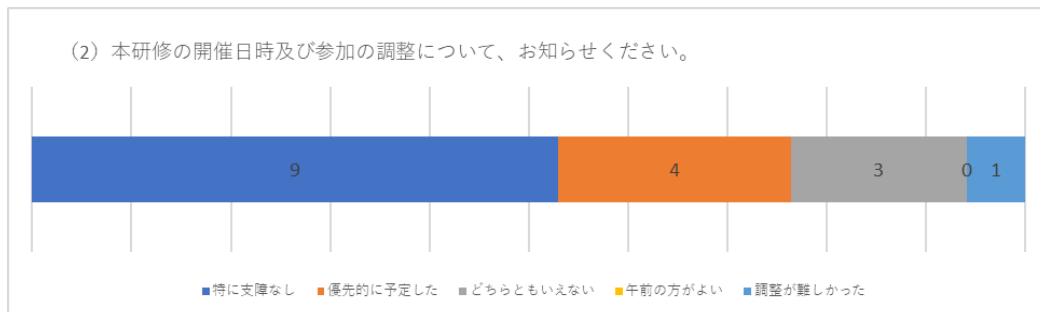
第 4 回環境担当者研修会 アンケート結果の共有

【設問 1】本研修全体についておうかがいします。

(1) 本研修はオール東京 62 環境担当者向け研修会として必要性を感じるものでしたか？



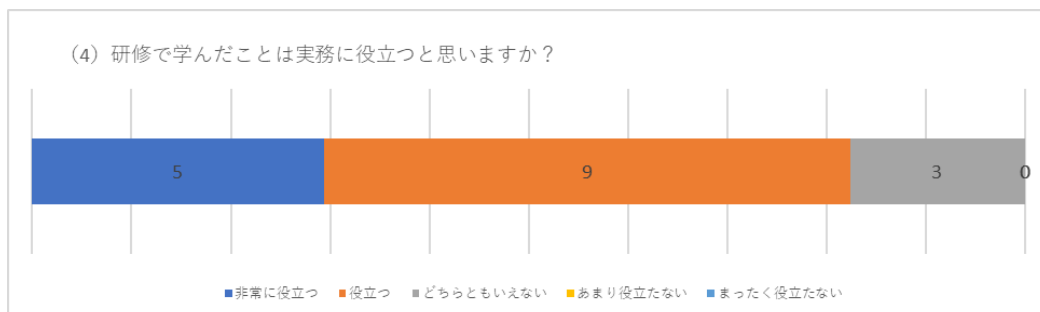
(2) 本研修の開催日時及び参加の調整について、お知らせください。



(3) 研修を受けてやるべきことが明確になりましたか？



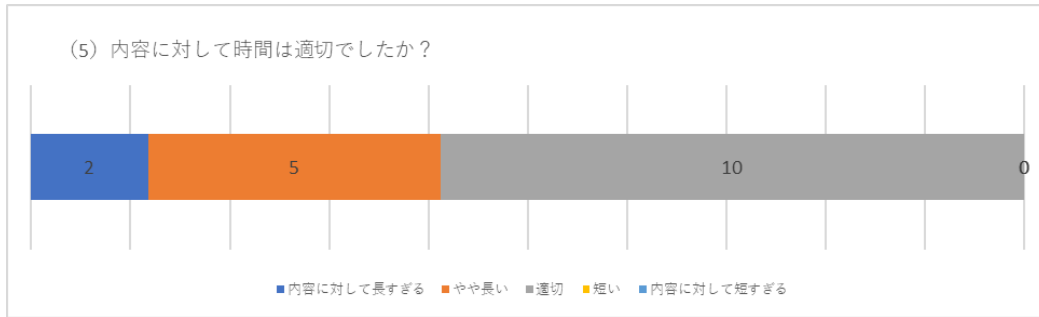
(4) 研修で学んだことは実務に役立つと思いますか？



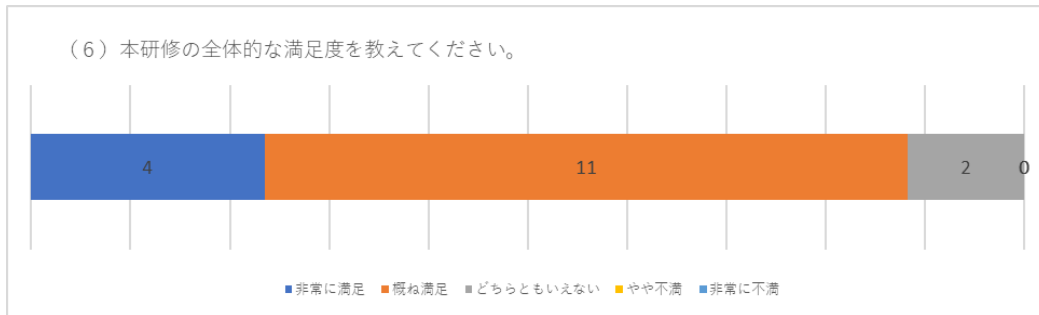
あまり役立たない・まったく役立たないと回答した方：それはなぜですか？

・ 選択なし

(5) 内容に対して時間は適切でしたか？



(6) 本研修の全体的な満足度を教えてください。



やや不満・非常に不満と回答した方：どのような研修会を望まれていましたか？

・ 選択なし
(7) 研修の中で一番印象に残っている内容は何ですか？
・ 外来生物対策に関する最新の動向についての具体的な取り組み
・ BIOME の取り組みと自治体の活用事例
・ 条件付き特定外来生物の対策事例
・ 30 by 30、OECM などの情報や、生物多様性保全行政の今後についての話
・ バイオームアプリの活用方法
・ Biome
・ バイオームの事例紹介と条件付き特定外来生物の事例紹介
・ 事例照会 1 のアプリが印象に残っています。今後活用について検討したいと思いました。
・ いきものコレクションアプリの利用について
・ バイオームを活用した生物多様性保全の取組事例
・ 生物多様性に関連する各法の位置づけ、関連、カバーイメージ。またバイオームを活用した一連の取組。
・ いきものコレクションアプリ・生物のデータ解析等の取組紹介（株式会社バイオーム）
・ (株)バイオーム様のアプリにおける、生物多様性の数値化。
・ 自然保護と生物多様性保全の違いなど

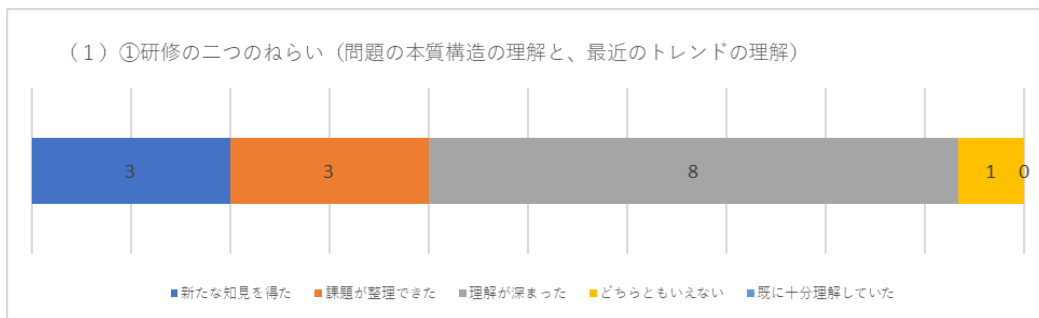
【設問 2】各セッションについておうかがいします。

第一部 講義「生物多様性を巡る国内外の動向」

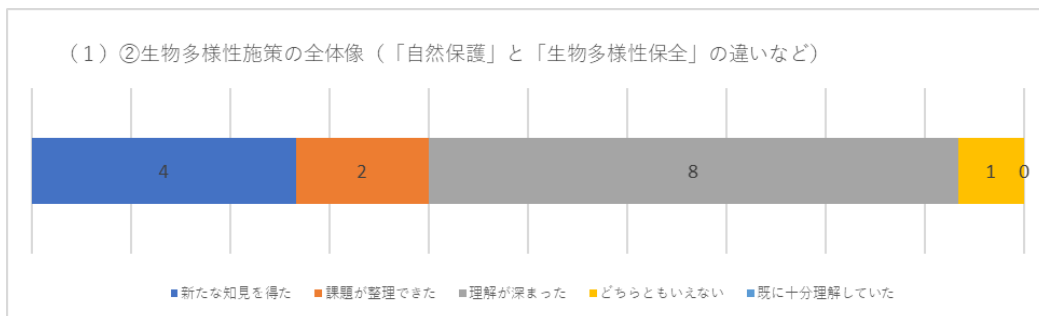
出席	18 名
欠席	7 名

(1) 講義内容に対する印象としてもっとも近い項目を選んでご回答ください。

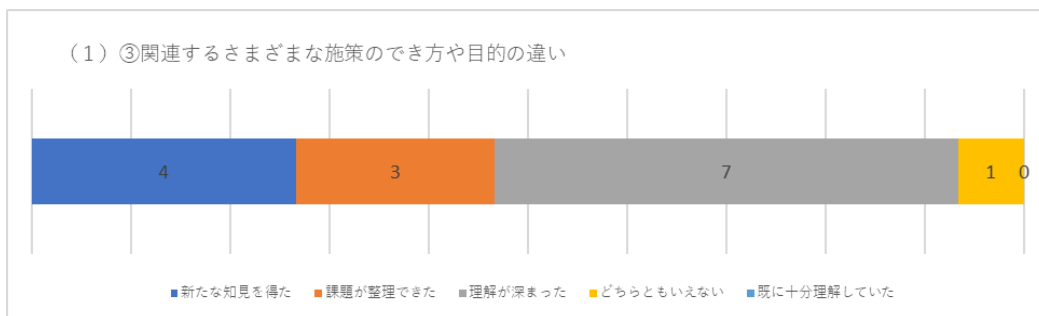
①研修の二つのねらい（問題の本質構造の理解と、最近のトレンドの理解）



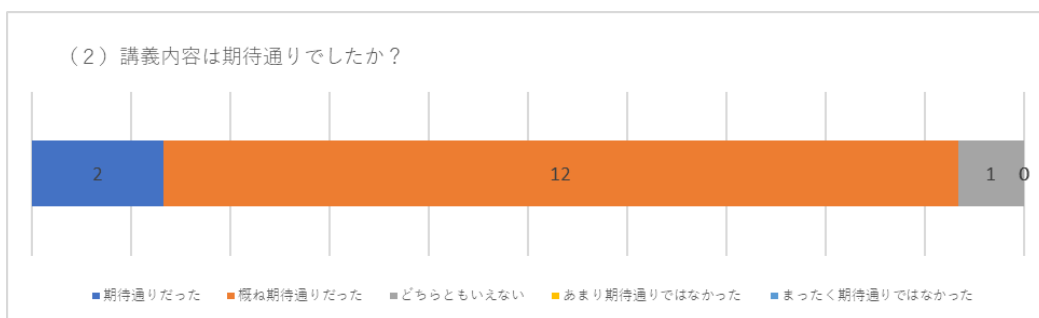
②生物多様性施策の全体像（「自然保護」と「生物多様性保全」の違いなど）



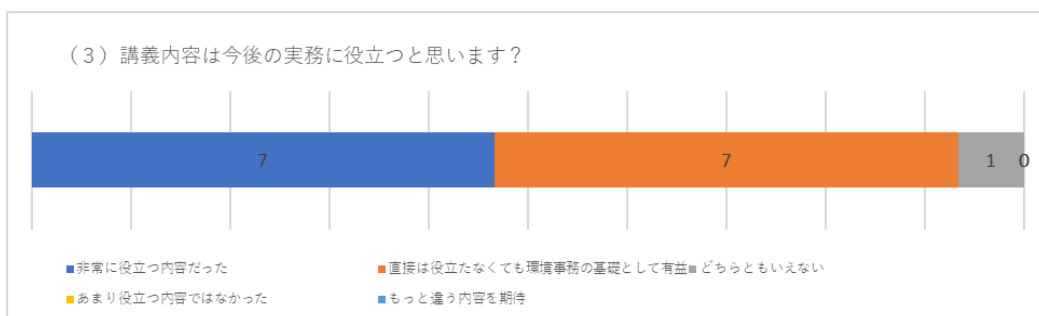
③関連するさまざまな施策のでき方や目的の違い



(2) 講義内容は期待通りでしたか？



(3) 講義内容は今後の実務に役立つと思います？



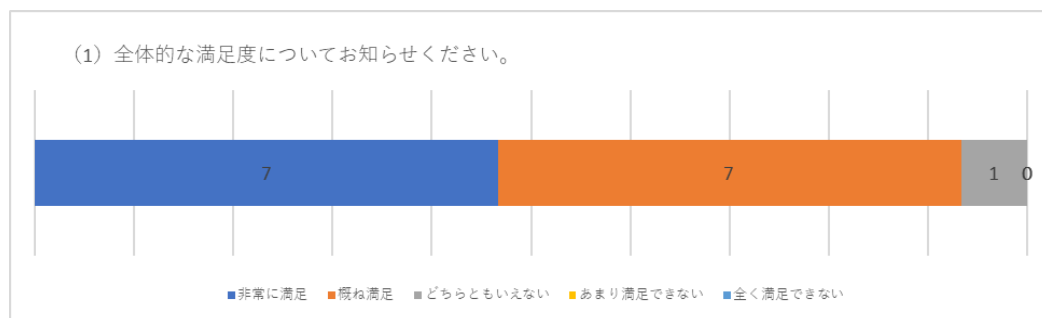
「あまり役立つ内容ではなかった」「もっと違う内容を期待」を選んだ方は、どのような内容を期待されたか、お書きください

・ 選択なし

第二部 事例報告について

出席	17 名
欠席	8 名

(1) 全体的な満足度についてお知らせください。

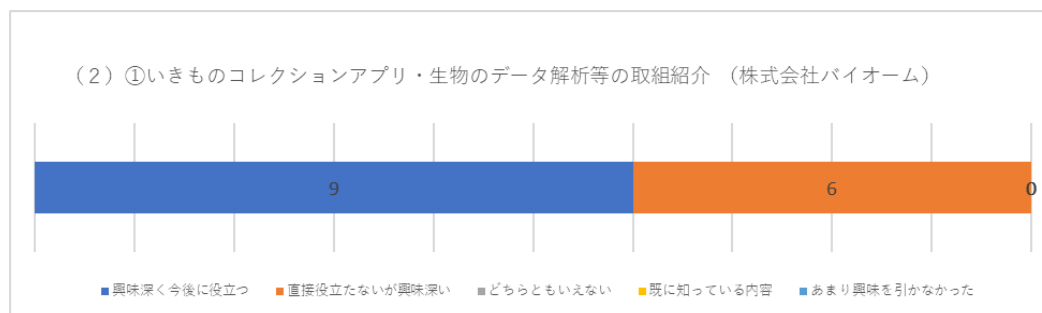


「あまり満足できない」「全く満足できない」を選んだ方は、どのような内容を期待されたか、お書きください

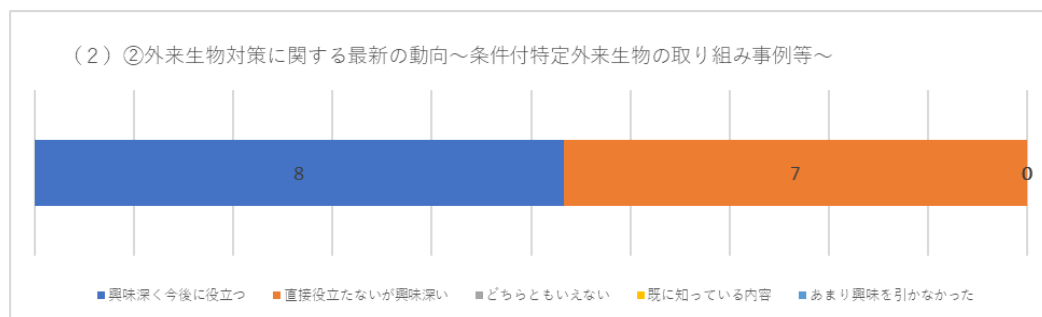
・ 選択なし

(2) 各事例報告に対する印象としてもっとも近い項目を選んでご回答ください。

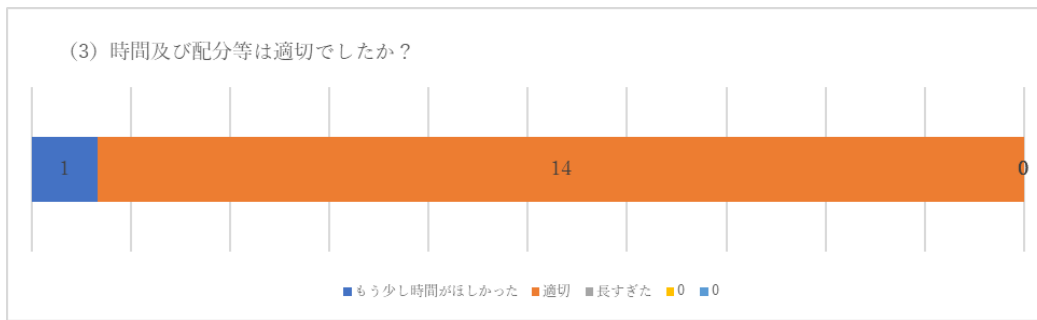
① いきものコレクションアプリ・生物のデータ解析等の取組紹介（株式会社バイオーム）



② 外来生物対策に関する最新の動向～条件付特定外来生物の取り組み事例等～



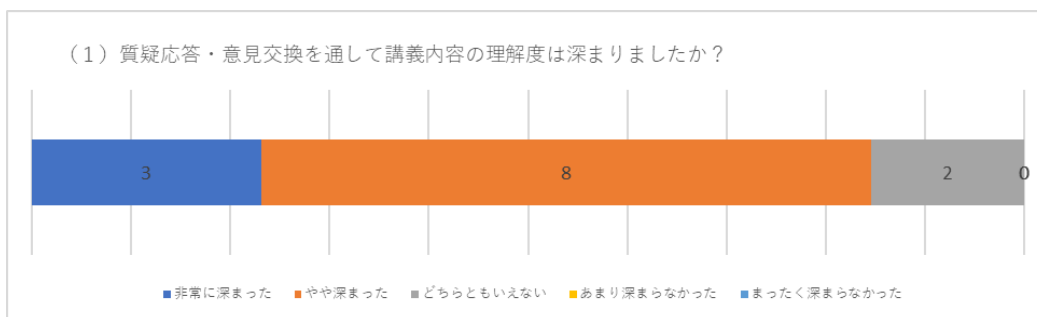
(3) 時間及び配分等は適切でしたか？



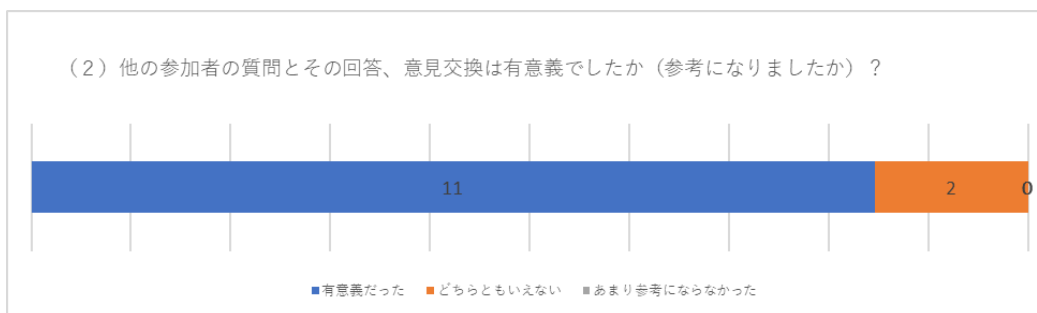
第三部 質疑応答・意見交換について

出席	13 名
欠席	12 名

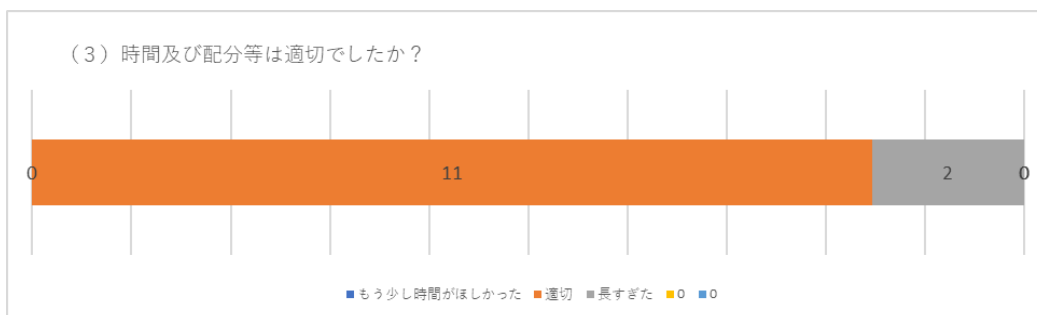
(1) 質疑応答・意見交換を通して講義内容の理解度は深まりましたか？



(2) 他の参加者の質問とその回答、意見交換は有意義でしたか（参考になりましたか）？

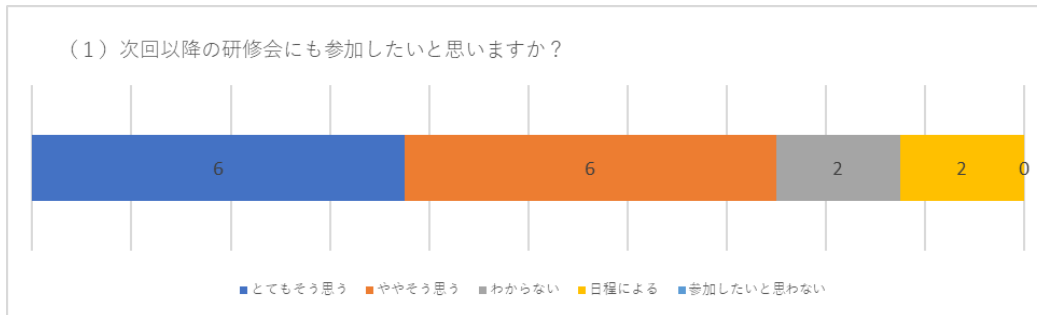


(3) 時間及び配分等は適切でしたか？



【設問3】今後の研修についておうかがいします。

(1) 次回以降の研修会にも参加したいと思いますか？



(2) 今回の研修会の良かった点、または改善点など、自由にお書きください。

適切な時間で生物多様性に関する深い知識を学ぶことができた。1自治体で解決できないテーマであるからこそ、他の自治体の取組を学び活かしていく必要があると考えた。
意見交換の場に東京都さんも参加していただき、今後の都の展望について聞けたので、業務の参考になった。
他市の方がお困りの課題や、都の今後の予定などが参考になりました。
Biome について：すでにこれほどの利用者と投稿数を抱えた Biome というアプリ・システムが存在することを知らなかったのが、大変参考になった。一般に、区民参加の生き物調査については、「参加者へのモチベーションの与え方」「同定の正確さ、誤同定発生への対応」「希少種等の位置の公開」といった課題が生じるものと認識している。 研修会終了後に個人的に Biome をインストールし、その機能を多少体験してみた。まず、Biome に付属している同定サポート機能（判定機能）を手元の各種画像で試してみたところ、誤同定が生じるケースはあるものの相当程度に正解するのが確認できた。投稿者の画像も閲覧してみたが、確かに誤同定が生じているケースもあるものの、全体としては相当程度に正確な同定がされており、判定機能（及び質問機能）がうまく機能している結果ではないかと思われた。ただし、判定機能については、例えばかなり鮮明でわかりやすいと思われるメダイチドリ、ムナグロの画像に対していずれもシロチドリが第一候補としてサジェストされてしまう等、弱点も確認できた。また、ハシブトガラスが東京都絶滅種と表示されるという直ちに理解が難しい表示も確認された（「日本のレッドデータ検索システム」http://jpnrd.com/）においてもハシブトガラスが東京都絶滅種とされており、これが関連しているのかもしれないが現時点で理由判明に至っていない。 足立区&バイオームによる「あだちで見つけた生き物図鑑」を拝見した所、投稿画像のうち正しく同定されたものをピックアップして図鑑に採用し、生きものマップについては投稿数と種数のみの掲載とされており、前述の「同定の正確さ、誤同定発生への対応」「希少種等の位置の公開」の課題はいずれもクリアされた形で編集されているものと思われた。また、参加者への景品はフィールドスコープや顕微鏡等、一般的感覚ではかなり価値が高いと思われるものがラインナップされており、前述の「参加者へのモチベーションの与え方」の課題の解決にも寄与しているものと思われた。2022 年夏編では参加者数 906 名、見つけた数 9,487 件、見つけた種類 1,731 種類とされており、これほどの参加・投稿数が得られるのならば、区の生物多様性イベントとしては大成功なのではないかと思われ、今後、荒川区でも導入の可能性等を検討していきたいと考える。
条件付き特定外来生物の話やいきものコレクションアプリの紹介など、より業務に取り入れやすい内容が多く良かったです。
生物多様性に関して今後どのように取り組むべきか考えるにあたり、有意義な研修でした。
生物多様性を巡る国内外の動向では直近のトピック（30by30、OECM 等）について学べたことが良かった。また、バイオームを用いた生物情報の収集や活用の事例などが非常に魅力的で参考になった。
生物多様性を巡る国内外の動向では生物多様性に関連する各法の位置づけ、関連、カバーイメージを確認でき、非常に参考になった。また、バイオームを用いた生物情報の収集や活用の事例なども非常に興味深い内容であり、今後の本市での活用も検討してみたいと感じるものであった。
全体的に、最新動向が解説されており興味深かった。
緊急対応と重なってしまい、研修を十分に受講することができませんでした。今後もこのような研修があれば積極的に参加したいと思います。

(3) 本日の研修内容に限らず、環境担当として業務遂行上で困っていることなど、翌年度以降の研修テーマとして取り上げてほしいテーマ・トピックスなど、お書きください。

・ アメリカザリガニ・アカミミガメは条件付特定外来生物の指定により自治体への相談件数が増加すると推測されるため、区民向けの普及啓発対策として深く取り上げていただければ幸いです。
・ TNFD など、民間企業の動きに関連する事項について深く掘り下げていただけると非常に参考になる。
・ 情報収集のため、今回のような国内外の最新の動向や取り組みなどを共有していただける研修。
・ 質疑応答の時間にも触れさせていただいたが、新たに条件付特定外来生物として指定されるアカミミガメ、アメリカザリガニについては、これからの啓発の進め方に難しい面があると感じている。 例えば、すでに荒川区で対策事業を実施しているアライグマ・ハクビシンについては、区民に家屋侵入や糞害等の被害が生じることで「自動的に悪いものと認識される」という構図があり、それが苦情となって表面化することで謂わば区民と区が一体となって共通の敵に対処する仕組みが成立していた。 しかし、アカミミガメ、アメリカザリガニについては、その存在が直ちに苦情を生じるものではなく、区民にとって必ずしも「悪いもの」だとも認識されていない（レクリエーションの対象等と認識されていることも予想される）動物であり、「なぜ悪いのか」「何をすることが悪いのか」の啓発にあたっての難しさがあると感じている。 質疑応答の際に東京都環境局より啓発ツールが用意されるとの説明があり、今後、それらのツールも活用しながら区民への広報・指導の仕方を検討していきたいと考える。今後の研修でも条件付特定外来生物指定後の経過、状況の推移等の情報を得られる機会があればと思う。
・ 今回の事例紹介のような研修を次年度以降も続けていただけると幸いです。
・ 河川・海域における最近の話題（水環境における窒素の挙動、河川における悪臭やスカム発生の機序等を含めて）
・ 条件付特定外来生物に指定されるアカミミガメ、アメリカザリガニについて、今後基礎自治体に求められるであろう対策のレベルや方法、それらの展望（どの程度防除を行うのか、対策の手法・事例、防除後の個体の取扱い、指定後の最新動向等）
・ 生物多様性について、いかに市民に関心を持ってもらえるか、普及啓発の効果的な取組事例などがあれば知りたい。
・ 研修をして頂きましてありがとうございました。困っていることとしましては、以下になります。 ・ 地域での環境活動を担う、人材の発掘
・ 今回のように、生物多様性についての最新動向や取り組むべきことを盛り込んでいただければ良いと思います。